

くすべ地蔵
地蔵様をろうそくの火でくすべる(いぶす)という、全国的にも大変珍しい風習が伝承されています。頭が良くなりたい人は頭を、足が痛い人は足を、というふうにして、ろうそくの火に願いを込めて地蔵様をいぶすと、願い事が叶うといわれています。毎年12月14日は地蔵祭り、夕方になると地域の子どもたちがろうそくを手に持っていていぶしに来ます。地蔵様が黒くなるほど、豊作、平穩無事であるといわれています。



認定番号第ふるさと H26-2 号 推薦者 富納区

七坪産神社 産さん滝
第7代菊池次郎隆定が、貞応元年に建立したとされており、建立から約800年という古い神社です。台風や災害で3度建て替えられたとされています。神殿には、鎮西八郎為朝の妻子8人が祭られ、お産の神様として祈る神として尊崇されています。鳥居から神殿、そして滝までの道では、滝の音が臨場感あふれる自然音を奏で、木漏れ日が幻想的な空間をつくり出し、訪れた人に清涼感を与えてくれます。



七坪産神社



産さん滝 認定番号第特別 H26-3 号 推薦者 七坪区

部落解放第60回全国女性集會に参加して 地域人権教育指導員 稲田京子
5月、広島県のバラのまち福山市ふくやま芸術文化ホールで開催された部落解放同盟中央本部主催、部落解放第60回全国女性集會に参加しました。
女性差別撤廃条約批准30年、戦後・被爆70年を迎え、人権・平和・環境の確立、男女平等社会の実現に向け、すべての女性と連帯・共同して取り組んでいこうという目的で開催されました。
オープニングでは、広島県連女性部の方々が、「・・・原爆は罪のない多くの人を殺し、今も苦しみが続いている。どんな美名をつかおうとも、正義の戦争などありはしない」と詩の朗読を締めくくられました。

基調提案では、女性をとりまく現状と課題がさまざまに提起されました。男女格差指数が1年前と比べると1ランク上昇しただけで142カ国中104位という現状です。上位の国では、国をあげて男女格差を解消する取り組みを進めています。例えば、議員議席の割合を割り当てる方法(クォータリー制)の導入、育児休暇の取得率の上昇、父親の育児参加の促進、子どもが小学2年生まで労働時間

短縮する権利の保障、識字率や高等教育への積極的な取り組みなどがあります。
日本では、積極的な少子化対策、ワークライフバランスの実現、労働者が性別で差別されることがないような職場、労働時間の短縮、男性にも取得しやすい育児・介護休暇や各種休業制度の充実などが課題になっています。また、職場の環境づくりをはじめ家庭や地域で性別にこだわることなく意欲と能力を十分に発揮できるような、それを支える制度やシステムの構築とともに、社会全体の意識の改革が求められています。「労働基準法」「男女雇用機会均等法」など労働者の人権を守ってくれるさまざまな法について無知であったなど反省すると同時に、「身を守る」「人権・いのちを守る」「くらし・家族を守る」ためにも法を生かすことの重要性を痛感しました。

一緒に参加した人との交流があるのもこの集會の特徴です。以前から活躍されている県南の男性が、今回連れ合いの方と参加され、かいがいしく世話をされています。連れ合いの女性が、「この体は、これまで頑張ってきた私の勲章で

す」と誇らしげにおっしゃると女性の車いすを押しながら「私これまで解放運動を頑張ってきたのは、家族の支えがあったから」と目を細めて返されました。二人の絆の深さを感じるとともに、支え合い認め合う人間関係が基本だと思いました。

また、20歳代で初めて参加した女性は、人とのつながりも大切にしようとお初対面の方にも自ら話しかけていました。学校教育の中で人権・部落問題を正しく学んできた世代の方です。身近な部落差別の問題に向き合うために積極的に学んでいる彼女の真っ直ぐな姿勢が眩しくみえました。ありのままに真っ直ぐに生きることを阻むものがあれば、阻んでいる周りこそ変わっていく、変えていくそんなふるさと「人権のまち」は素敵でしょう。

しかし、女性や部落差別の問題をはじめさまざまな人権の問題を当事者だけが頑張っている姿がまだ多いように思います。当事者だけが頑張る社会ではなく、市民みんなが「人権のまちづくり」を進めながら住みよいふるさと菊池を共につくっていきましょう。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

「菊池市文化協会 合同絵画展」
期間 9月8日(火)～13日(日)
絵画部門の各支部会員が一堂に作品を展示します。ぜひご覧ください。



昨年度の展示風景

「菊池遺産展」
期間 9月15日(火)～10月4日(日)
古来先人たちにより大切にされてきた身近な地域の宝物。菊池遺産122カ所の写真を展示します。ぜひご覧ください。



開館時間 午前9時～午後6時
※期間中の閉館日はありません。

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

「ギャラリー」
「菊池市高齢者大学 書道クラブ作品展」
菊池市高齢者大学書道クラブ
期間 9月1日(火)～13日(日)
私たちの1年間の努力の成果をぜひご覧ください。
「彩りの会 絵画展」彩りの会
期間 9月15日(火)～27日(日)
何気ない日常や風景を水彩、油彩で描きました。感動をお伝えできれば幸いです。ぜひご来館ください。

「まちかど資料館企画展」
「菊池に祀られる神々 古事記、日本書紀の神様展」
期間 ～11月29日(日)
自然崇拝を起源とする日本の八百万の神々は、さまざまな思想や宗教と融合しながら、常に日本人の心の中に生き続けてきました。市内には多くの神社があり、そこにまします神話の中の神様を紹介します。

開館時間 午前9時～午後5時
※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)



イデベンチャー指導者も「きらりびと」です

菊池グリーンツーリズム
ふるさと緑の便り
問い合わせ先 さくちふるさと水源交流館 ☎0968(27)0102
菊池市水源地区には「きらりびと」と呼ばれるひとがいます。これは農業やものづくり、郷土料理などさまざまなジャンルで「きらり」と輝く「ワザ」を持つ地域の人のことです。
水源地区のきらりびとは現在約50人。「自分のできること」を登録し、廃校活用施設で提供している体験プログラムの指導者として活躍しています。里山に住む人たちは多くの知恵や技術を持っていることにも気づかれます。
田植えなどの農業、昔ながらの竹細工、地域の味や団子づくりなど、50代の若手から80代のご意見番までが、地域に伝わる技や知恵を後世に繋ぐために……というよりは子どもたちの笑顔のために精を出してくれています。
地域に根ざした歴史的、文化的な知識や知恵を持った人材を見直し活かしていくことは、これからの地域づくりの役に立つのではないのでしょうか。

三無三多の島 濟州島
濟州島は韓国で一番大きい島であると同時に、韓国領の島の中で人口が一番多い島でもある。(平成26年10月末時点60万人)火山活動によってできた火山島で中央の漢拵山(1950m)を中心に緩やかな傾斜を成し、東西73km、南北40kmの楕円形をしている。
昔から石、風、女の三つが多いことから三多島と呼ばれた。島自体が巨大な熔岩の固まりであることからあちこちが石(玄武岩)で覆われている。また、島という地形上、潮風と漢拵山からの風が吹き荒れる。この風の影響で各家には大門がない。強い風で飛ばしてしまうからだ。それで留守にする場合、風で飛ばないように家の入口の石柱に丸太を横にかけておく。この丸太にも意味がある。1本だけかかっているれば「家の近くにいないからすぐ戻る」、2本かかっているれば「今日中には帰って来る」、3本かかっていると「遠くに出出しているので今日中には帰れない」という意味だ。そして、

女性がが多い事には悲しい事情がある。男は船で遠い海に漁に行き、水難事故のため海で死ぬ事が多かった。残されるのはいつも女だった。
また濟州島は三無島でもある。島民は厳しい自然と闘いながら勤勉に簡素に暮らし互いに助け合ってきた。それで貧しいが食がいなかったと言う。ゆえに泥棒、乞食、大門がないということでも三無島と言った。
濟州島は地質上、農業ができる環境ではない。稲作は一部の地域に限られていた。昔は稲藁が十分に取れず野原でよく育つアスキで屋根を葺いた。このような伝統家屋は民俗村で今も見ることが出来る。
また濟州島には火山活動の過程で生まれた多くの熔岩洞窟がある。この自然環境のおかげでユネスコが認めた生物圏保全地域、世界自然遺産、世界地質公園など自然科学の分野で3冠王になった世界唯一の地域である。
韓国は一般的に活気溢れエネルギッシュなイメージだが、穏やかで自然豊かな濟州島という韓国の一面も知ってもらいたい。